

会議録

会議の名称	令和5年度 第4回座間市学校施設適正化方針検討委員会		
開催日時	令和5年 9月 26日(火) 14時00分～16時30分		
開催場所	市役所5階 5-4会議室		
出席者	山森委員長、天野副委員長、小宮委員、牧野委員、窪委員、河野委員、川畑委員		
事務局	教育部 教育総務課 木島教育長、安藤教育部長、高木教育総務課長、野澤就学支援課長、東保健給食担当課長、下斗米教育指導課長、石田教育研究所長、清水施設係長		
会議の公開可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	0人
非公開又は一部公開とした理由	—		
議題	1 これまでの議論のまとめと望ましい学習環境について 2 (仮称) ざま魅力ある学校づくり方針骨子(案)について		
資料の名称	資料0 (仮称) ざま魅力ある学校づくり方針検討の流れ 資料1 これまでの議論のまとめとこれからの姿(3つの柱) 資料2 望ましい学習環境について 資料3 (仮称) ざま魅力ある学校づくり方針骨子(案) 参考資料 教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備例		
議事の詳細			
<p>(○委員の発言、●事務局の発言)</p> <p>議題1 これまでの議論のまとめと望ましい学習環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料0、資料1に基づき、詳細な内容の説明 <p>○説明の中で、本方針の名前を「ざま魅力ある学校づくり方針」としたいとの考えが示された。子どもの減少、施設の老朽化という実態・課題があるなかで、本委員会では学校の適正規模・あり方を考えるだけでなく、これからの子どもたちにとってより良い学習環境とは何かということで議論を重ねてきた。この方針の名前を「ざま魅力ある学校づくり方針」とすることは、学校施設の適正化と学習環境の充実を合わせて実現していくことをわかりやすく伝えるために有効だと考えるが、この件について委員より意見をお願いします。</p> <p>○適正化方針という名称はマイナスイメージを感じた。「魅力ある学校づくり方針」は、</p>			

未来に向かって新しい出発をするプラスイメージで良い。

○賛成。魅力とは何かを考えたときに、施設・設備の充実や、規模が適正、支援が充実している、人材が整っている、学校と地域の連携が図られていることだろうと考え、方針の内容と一致していると思う。

○今後、委員会では「ざま魅力ある学校づくり方針」とする。

資料1、3ページの3つの柱について意見があればお願いします。

○ユニバーサルデザインの推進とはどういう意味か。

●ユニバーサルデザインとはだれもが分け隔てなく使えるという意味。主に想定しているのは、支援が必要な子どもと同じように行動できるような配慮を進めること。

○避難所についてこれまで議論は無かった。今は学校施設を避難所として間借りしているが、それを超えた内容を今後検討するのか。

●今後施設更新があっても学校施設が避難所機能を担うことは変わらないと想定し、施設更新の際は避難者への配慮の視点も踏まえることについて意図したもの。

○カーボンニュートラルについてはどうか。

●本市は総合計画においてゼロカーボンという大きな目標を掲げている。学校も市の施設であるため整合させる。

○子どもたちや教職員が快適に過ごせる、というのは先生方にとっても大変良い。

○3つの柱の分け方について、重なる部分もある。

○方針策定過程で変わる可能性もあるのではないか。

●頂いた意見を踏まえてブラッシュアップしていく。

○方針の柱について、事務局で修正、再整理しながら進めて欲しい。

・事務局から資料2に基づき、詳細な内容の説明

○今後は地域と共にある学校を目指し、学校を核とした地域づくりになっていくと思うので、学校と地域が一体化した施設整備が望ましい。今の学校に不足しているのは、教職員の休憩室、保護者に電話するときの静かな場所、特別な配慮が必要な児童がクールダウンできる小部屋。防犯も課題に挙がっていたが、地域の方が学校に入ること子どもたちの見守りに繋がる。

○みんなのトイレや更衣室等、今の学校現場に不足していることが網羅されている。マルチスペースや憩いの空間、オープンスペースを用途に応じて仕切れるのは良い。特別支援学級は増減や1人学級もあるので、柔軟な対応が必要。Wi-Fiやプロジェクターが体育館やグラウンドで使えれば教育が変わる。

○PTAとしては来賓室があると良い。資料2は各柱と関係する項目が「どうなるのか」がわかると良い。また、3つの柱から出ている線と、周囲の絵の部分が繋がると良い。

○体育館の空調整備、トイレの整備、Wi-Fiの設置などがあり、喫緊の課題だと思っている。みんなが快適に過ごせる学校とは、絶対的な安心と安全がある学校。PTAでは、不審者等に対するセキュリティがなければ快適な学校は厳しいのではないのかという意見があった。

○私立学校に備えている応接室のような設備をぜひ設置してほしい。総合的な計画だと思うが、小中一貫校の設置は入っているか。

●現状で座間市として小中一貫校を作ることは考えていない。方向性としては小中連携を目指すことを考えている。

○本方針の中に小中一貫校を記載するつもりは、現時点ではないということか。

●将来的に建替えをする場合、小中一貫教育に移行していくことも想定して、隣接した学校設備を活用する可能性も話題になったが、小中一貫校にするとマンモス校になる危険性もあるため、現時点では小中連携に重きを置きたいと考えている。

○小中一貫校は、どちらかといえば学校の制度の話になり、施設からは外れる。市としては連携を考えているということで理解してもらいたい。応接室などについては、反映して貰えばよいと思う。

○「座間市ならではの学習」として、小さいうちから世界に興味を持つよう国際的な教育をもう少し進めたり、国際級の増加に伴い世界に目を向けるスペースがあってもいい。また、世界に出たら日本という国を説明できないといけない。ひまわりプランにもあるとおり、日本の文化や伝統に興味を持ち、自然と目を向けられるようになって欲しいので、和室があるといい。学校施設を造るなら、LED照明、二重サッシ、太陽光発電や蓄電池、木材活用などができたら良い。

○コミュニティ・スクールで喫茶店を開き、先生が休み時間にお茶を飲めないかと思っている。応接室は絶対に必要。また、業者さんと話す場としてロビーを設けたい。そのほか、先生たちが教材研究を継続できる場所があってもいい。

学校種間を連携する部屋があってもいい。幼稚園と小学校の併設校では、幼稚園に準じた部屋を小学校に設けて幼稚園児が小学校を体験したり、生活科のような場合には、小学校1年生が過ごすようになっていた。校長先生の裁量で教室の使い道を決められる部屋があると、独自の魅力ある学校が各校で展開できる。

○今日は教育委員会の各課長も来ているので、望ましい学習環境について色々と意見して欲しい。

●学校の屋外空間の環境について。自然と親しむ場が少なくなっているなので、人も自然界の一部であること等を意識できる環境を用意できるとよい。校庭に実がなる樹木を植えると自然観察や季節を感じる。木の世話や実の収穫で地域との新たな交流が生まれる契機となる。木陰の涼しさを感じることで環境問題を意識することもあるし、グラウンドの暑さ対策に役立つ。屋外に出ることが増え子どもたちの体力向上も期待できる。緑の傍らにアスレチックなどを設置すれば学校が楽しくなる。学校ごとにシンボルツリーを選ぶと学校や地域のイメージアップにつながる。地域の方々の手を借りながら、交流の契機となる緑化を考えてはどうか。

●先生方の勤務環境について。先生方は休憩が取れない現状がある。給食指導のため昼休みもない。子どもたちが帰った放課後に休憩を取るようになってきているが、休憩スペースの確保は必須。一息つける場所を整備することで精神的余裕が生まれ、子どもたちに対して

ゆったりした心持ちで対応できる。また、個別作業可能な1人席のような余裕スペースが確保できるといい。さらに、DX化も遅れているので、DX推進が当たり前に取り入れられるといい。

●上履きを廃止する一足制導入について。子どもや学級数が今後さらに減少した場合、下駄箱や昇降口を持て余す。次に校庭について、本市は県内で4番目に人口密度が高く、校庭の目の前まで住宅が迫っている。グラウンドは砂埃が舞い近隣住民の迷惑になっている。都区内では一足制が始まりグラウンドに人工芝を張っている。校庭を人工芝にすると、近隣住民の生活環境が改善する。他団体の資料によると、メリットとしては教育活動の効率性の向上、昇降口に限定されずに外部と出入りができる、靴の履き替え時間が不要になり円滑な授業進行が可能になる、休み時間等に校庭を利用しやすくなり児童生徒の体力向上が期待できるなどがある。さらに、安全性の向上として、昇降口の事故やトラブル等のリスク低減、災害時の安全な避難誘導が挙げられる。デメリットは、校庭の表層が人工芝に限定され整備コストが増大することや、体育館用の靴が必要になることとなっている。

○上履きを履かない学校に個人的には賛成する。避難の時、靴の方が安全。一足だと休み時間もすぐに校庭に出られる。昇降口は一日15分くらいしか使わないので、もったいないスペース。

●子どもたちの学習環境について。今の学校は教室が狭く壁で仕切られている。グループワークが増える中でゆとりある活用がやりにくい。各教室の間仕切りを移動し連続性を持たせて広く使えることができれば、学年全体での教育活動や総合的な学習も展開できる。

「学校施設全体が学びの場」に記載した屋外テラスの活用について。特に小学校では、理科や生活科で野菜や植物を育てるため、教室前にテラスがあれば植物が育つ様子が身近に見え世話もしやすい。また、様々な壁をプロジェクターにすればICTを活用して学習が進めやすい。

コミュニティ・スクールの推進と複合化について。地域の方々が学校併設の複合施設で囲碁将棋や絵手紙、習字などのサークル活動を行い、児童生徒が休み時間に一緒に交流・体験。サークル活動参加者が、活動終了後に学校の教育活動ボランティアとして絵手紙や読み聞かせに参加するなど、地域と子どもたちの活動と一緒に展開される形が地域とともにある学校と考える。それを推進できる施設を充実させたい。

●資料2のマルチルームについて。居心地のいいマルチルームは、学校ごとの特色や課題に柔軟に対応できる場所になるといい。教育的効果も高いと考えられる。カウンセリングルームやことばの教室などは、現在、設置場所に苦慮しているが、間に人がいない空間を設けることが出来れば設置が容易。

余裕スペースの活用について。学校で、習字や作品を廊下に展示しているのは、手に取れたり視界に入りやすい作品展示や資料配架が大事なため。普段の生活の中で自然に情報収集できる空間づくりは教育的効果が高い。座間の教育資料を置ける場所があるといい。座間小学校にはいずみ文庫という素晴らしい施設があるが、子どもたちが日常的に見られる状況ではないので、身近に触れられる場になるといい。

最後に、参考資料事例3に、窓際に設置されたカウンターの写真がある。似たスペースを旭小学校で作り、自由に調べ学習ができるようにした。子どもは身近な狭いところも好きなので、デッドスペースの活用により、子ども目線の活用につながるのではないかな。

●豊かな芸術空間を学校の中に作る必要がある。自分たちの作品を常時飾れる空間を校の中に作れるといい。日常的な体力づくりができる空間も必要。半屋外で雨の日でも上履きのまま身体を動かせる場があるといい。また、ビオトープ、エネルギー使用量がひと目でわかるような見える化設備が環境教育・理科教育に結び付くのではないかな。職員室については機能的・開放的な職員室といった表現、ランチルームも食育と関連して記載するとよいのではないかな。

○体育館に併設したトレーニングルームに類するものがあると良い。

○休み時間に先生がランニングマシン乗ったり、地域の人がボランティアで監視してくれたりするなど、体力づくり空間として可能性はあるかもしれない。

○座間市を説明する際はキャンプ座間のある所と言うとすぐにわかる。キャンプを教育的価値がある何かに活用できないか。どこかの学校に国際交流の場となるスペースを設けてキャンプと交流したり、キャンプの中に座間の小・中学生のためのスペースを作ってもらえれば、キャンプに教育的価値が生まれるのではないかな。

●本市小学校1校がキャンプ座間内にあるアーン (Arnn) 小学校と年2回くらい交流しており本市の特徴としているので、これからも進めたい。中学校の部活動も、バスケや野球などでキャンプの子と交流できたら楽しいと思う。短期留学として1週間程度キャンプ内にホームステイし、アーン小学校に通うこともあってもいいと考える。

○西中学校では、昨年度年2回キャンプ座間からボランティアが来て、ネイティブの人と交流などを行っている。

○国際交流で接待するのであれば、和室も必要。

○校地をトータルで見た改善・充実も必要。緑化や人工芝など。

●校庭に果樹を植える話があったが、樹の世話、収穫、地域の方とのジャム作りなど、これからは地域との繋がりなども求められると思う。各委員さんに貴重な意見を頂戴し、教員である課長や校長である委員さんに学校現場の理想の話をしてもらったが、資料2にあるような学校ができたなら座間の学校って大きくかわる、そこで育つ子どもたちはどう変わるのか楽しみにしている。

○大風掲揚に加え、大風を地域の保存会の方に学校で作ってもらうのもありではないか。作っている過程を見せてもらう。

●大風揚げは、新型コロナウイルス感染症の影響で3年ほど実施していなかったが、本年は風揚げをしたい子を初めてボランティアで集めて実施した。将来的には風作りをしたい子が、一緒に糸巻きに取り組み、自分達で揚げられるようになるといい。

○先生にも子どもにも、現状より一回り大きい机が欲しいと思う。1人1台端末になってからは重要な視点。

○上履きの廃止は書けるのか。大きな方向転換だと思う。

●事務局内で今後検討する。

○本日の意見の整理は事務局に一任したい。

議題2 (仮称) ざま魅力ある学校づくり方針骨子(案)について

・事務局から資料3に基づき、詳細な内容の説明

○今まで話し合ったことを網羅していると思う。

○本方針は、第3章「座間市が目指す魅力ある学校とは」において、「教育大綱」や「豊かな心を育むひまわりプラン」などにつながる。教育大綱の施策には一番上に豊かな心の育成があり、それを具体的にどう育てるのかというのがひまわりプランだ。

ひまわりプランでは「豊かな心とは」なにかを「豊かな心を育む」で説明しているが、2段落目に書かれた様々なことが実現していくことが豊かな心に繋がる。座間市が目指す魅力ある学校に望ましい学習環境や学校施設が必要な理由は、この部分の実現に必要なだと説明できる。

地域とともにある学校との関連で言うならば、「心は行動に」の2段落目の説明と繋がる。子どもの日々のふるまいから、「豊かな心」の芽生えを見つけることは、学校の先生のほか、コミュニティ・スクールを通じて地域の人達も子どもの豊かな心を見つけるという点で意味がある。子どもが地域のサークル活動を新しい学校の地域スペースで体験することで、先生以外の大人から上手だね等の言葉を掛けられ、嬉しいと感じる。そういう関係を作っていくことが「豊かな心」の芽生えを見つけ、育むことになる。

○直接当てはまらないかもしれないが、キャンプ座間、大凧、ひまわり、谷戸山公園、相模川などを教育活動に取り込むことができれば、座間らしい特色ある教育になると思う。

○「魅力ある学校」について、「こういうもの」という説明があると頭出しとして良いのではないか。

●「魅力ある学校づくり」という名称を考えたときに、「魅力」という言葉に託した思いがある。「魅力」という言葉を調べると、「人の心を魅きつけて夢中にさせる力」という説明が出てくるが、これは普遍的に定義された言葉ではなく流動的な定義。そうすると、一人一人の価値観によっても解釈が変わってくる。それを「色々な人が、様々な新しいことやものを創り出せる」というイメージとして捉えている。自分の価値観や思いを実現できる可能性を感じる言葉と解釈した。この学校なら、こんなことができるんじゃないか、こんなことをやってみたいという、子どもも大人もワクワクする学校像が思い浮かぶのではないかと思った。現状考えられるすべての魅力を詰め込んでこの方針を作り上げるわけだが、最後の一手はその時代の子どもたちや職員、地域の方々に創るんだという思いを込めて、「魅力」という言葉を提案したのが出発点となっている。

○今の話がテーマのような気もした。

○この名前を聞いたときに、「ワクワクするような学校にしたい」というイメージが湧いた。学校に行くことが楽しくなるといい。トイレや教室がきれいになるだけでも嬉しい。環境がきれいになれば、先生の教え方や子どもたちの学び方も変わっていくのではないか。

○第1章の方針の概要の部分に、魅力ある学校づくり方針とした理由を説明すべき。子どもが減っているから学校を適正な数に整理するのではなく、新しく望ましい魅力的な学習環境を整えていくという想いでこの名前を付けるということ。この委員会の議論が、単に施設の適正化ではなく、子どもの数が減っていく、施設の更新を行うタイミングを使って、よりよい教育環境を整えるための議論や検討をしてきたという経緯の説明について「魅力ある学校づくり方針」の内容に反映してもらえると、我々がどういう想いで取り組んできたのかが分かっていい。

○第5章の今後の検討の進め方について、文章ではなく、今後どうなっていくのかという流れをタイムスケジュール的に図式で見せたほうがいい。

○本日重要だったのは、本方針の名称を「ざま魅力ある学校づくり方針」としたこと。望ましい学習環境について様々な意見を出してもらえたので整理すること。方針については、骨子案のとおりに進め、意見を参考にしながら次回までに方針案を事務局にまとめてもらうが、それでよろしいか。なお、次回からは仮称を付けず「ざま魅力ある学校づくり方針」とする。

○（一同）異議なし。

○本日予定していた議事は終了したので、進行を事務局に返す。